

内分泌内科・糖尿病内科

●内分泌内科・糖尿病内科の概要

1. 内分泌内科・糖尿病内科の特徴

糖尿病・高血圧・脂質異常症などの代謝疾患の著増に伴い、内科疾患のプライマリケアにおいて当科での研修の重要性がますます高まっている。当科は、埼玉県西北部の内分泌疾患や代謝疾患の診療の基幹施設として、全国でも有数の患者数を有している。当科の特徴として、これら糖尿病をはじめとする内分泌代謝疾患の診断と治療全般を体系的に修得でき、特に肥満糖尿病への患者教育を通じた認知行動療法を実施できる。また内分泌疾患の診断と治療についても、日常よく遭遇する甲状腺疾患から極めて稀な下垂体や副腎疾患を経験できる。原発性アルドステロン症診断のための副腎静脈サンプリングは当科独自で行われている。さらには、骨粗鬆症についても、最新の診断と治療法を学ぶことができる。糖尿病や高血圧、脂質異常症の先進療法などにも力を入れており、先端的医療を提供できるよう努めている。

2. 診療実績

病床数 26 床

2023 年度の入院患者は 864 人であった。入院患者の主な疾患の内訳は以下の通りであった。糖尿病 505 人（うち、2 型糖尿病 416 人、1 型糖尿病（緩徐進行含む）50 人、妊娠糖尿病 32 人、その他 7 人）、糖尿病ケトーシス・ケトアシドーシス 34 人、高血糖高浸透圧症候群 12 人、劇症 1 型糖尿病 2 人、1 型糖尿病合併妊娠 2 人、2 型糖尿病合併妊娠 12 人、低血糖症・昏睡 11 人、下垂体腺腫 2 人、下垂体機能低下症 9 人、先端巨大症 2 人、Cushing 病 1 人、プロラクチノーマ 1 人、TSH 産生下垂体腺腫 2 人、尿崩症 2 人、リンパ球性下垂体炎 1 人、甲状腺機能亢進症 6 人、甲状腺クリーゼ 9 人、甲状腺機能低下症 3 人、甲状腺腺腫・腫瘍 79 人（穿刺吸引細胞診）、Cushing 症候群 3 人、原発性アルドステロン症 20 人、褐色細胞腫 2 人、副腎腫瘍 1 人、副腎皮質機能低下症 10 人、副腎クリーゼ 5 人、低ナトリウム血症 6 人、高カルシウム血症 3 人、先天性副腎皮質過形成 1 人、内分泌負荷試験総数 105 回※疾患数は疑いも含む、2023 年度の 1 日外来患者数 126.1 人、年間外来延べ患者 36,954 人、新患数 904 人（総合診療部への受診は含まない）。

3. 診療スタッフ（2025 年 4 月現在）

島田 朗（教授、診療部長）：内分泌代謝学（特に糖尿病）
及川 洋一（教授、研修医担当医長）：内分泌代謝学（特に糖尿病）
井上 郁夫（教授：兼任）：内分泌代謝学（特に脂質異常症）
野田 光彦（客員教授）：内分泌代謝学（特に糖尿病）
片山 茂裕（名誉教授）：内分泌代謝学（高血圧、糖尿病、内分泌疾患）
一色 政志（教授：兼任）：内分泌代謝学（特に高血圧）
栗原 進（客員教授）：代謝学（特に糖尿病、肥満症）
安田 重光（准教授：兼任）：内分泌代謝学（特に副甲状腺・骨粗鬆症）
池上 裕一（講師）：内分泌代謝学（特に糖尿病、内分泌疾患）
里村 敦（講師）：内分泌代謝学（特に糖尿病）

ほか助教 14 名

4. 臨床研修プログラムの特色

「新医師臨床研修制度」に掲げられた研修目標のほかに、臨床医として身につけておくべき基本的事項を研修するためのプログラムである。内科専門医、内分泌代謝・糖尿病領域専門医、糖尿病内科領域専門医を目指す研修医にとっては、その基礎となる研修プログラムである。将来、どの診療科を専攻するにしても、最も頻度の高い糖尿病、高血圧、脂質異常症のプライマリケアの修得は不可欠といえる。

5. 内分泌内科・糖尿病内科の週間予定スケジュール

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 土曜日 |
|----|-------------------|------|---|---------------|-----|-----|
| 午前 | 病棟 | 病棟 | 8:00 新患紹介 10:00 教授回診 | 病棟 | | |
| 午後 | 4:00~5:00 チームカンファ | | 甲状腺穿刺吸引細胞診 (FNAB) 糖尿病教育入院 カンファレンス 副腎静脈サンプリング (AVS) 検査 (第1, 3週) | 病棟 糖尿病教育入院 | | |
| 夕方 | クルズス | クルズス | 5:00~ 症例検討会、抄読会、医局会 | クルズス | | |

※クルズスは糖尿病、高血圧、脂質代謝異常を中心に研修中に6回行われます。

●内分泌内科・糖尿病内科の学習目標

一般目標 (GIO)

臨床医に必要な基本的な臨床能力を身につけるために、代表的な内分泌代謝疾患の診断と治療の実際を学ぶ。

行動目標 (SBOs)

1. 内分泌代謝疾患に関連する基本的な身体所見（バイタルサイン、意識状態や精神状態、貧血、顔貌の異常、甲状腺腫脹、浮腫、脱水、四肢のしびれ）がとれる。
2. 各ホルモンの過剰あるいは不足によって生じる症状や症候を述べることができ、それぞれの疾患の治療法を説明できる。特に、ホルモン補充療法について説明できる。
3. 各ホルモンの基礎値や負荷試験の結果を解釈できる。
4. 各種ホルモン分泌刺激試験あるいは分泌抑制試験を実施できる。
5. 糖尿病の病型、病態と診断基準、治療法を説明できる。
6. 糖尿病の合併症について病態と治療法を説明できる。
7. 低血糖症の診断を行い、治療することができる。
8. 脂質異常症の病態と診断基準、治療法を説明できる。
9. 高尿酸血症の診断基準、治療法を説明できる。